

清右衛門居屋敷之内借地仕罷有候處、寛文十一年從小松一引越之寺庵方へ替地之儀被仰出、寺社御奉行に御断申上候處、同年七月地子地被仰渡、則卯辰山之内大衆免村領寺續之地三百歩、地子に而請取、外に二百歩百姓より相對を以墓地に請込、唯今に至罷在候。と書載せたり。按ずるに、三寶寺が觀音下町丹羽次郎兵衛家人嶋野清右衛門居屋敷内に借地にて居たりし頃は、不受不施派なり。寛文九年四月藩士片岡七郎右衛門改宗断書に、且那寺禪瑞雲寺之處宗旨替致し、淺野川觀音下日蓮宗不受不施三寶寺に參詣仕。と書載せたり。但し改作所舊記を見るに、寛文九年四月廿九日の達書に。

覺

一、向後不受不施日蓮宗寺院、寺請に取申間敷旨、去十五日於殿中、北條安房守殿 高木伊勢守殿・保田若狹守殿・石黒太郎左衛門に就被仰渡、其趣委細立御聞候處、御領國中男女下々迄、不受不施之宗門替可申由被仰出候事。
一、不受不施、受不施に宗門を替候旨にて、内證不受不施に仕罷在出家も有之間、此段被入念申渡、不受不施出家受

不施之宗門に改候様、常々寺社奉行可被致吟味候。不受不施之寺院僧中、會而御構無之候。檀方之輩、自今以後右之宗旨に罷成儀御停止被仰付候へば、おのづから彼寺院断絶候旨、北條安房守殿御申候由候事。
一、不受不施を替候而、何之宗旨に改候由、其身并寺院之書付を取可被出候。寺の儀は社寺奉行に申渡可遂承事。右之趣被得其意、御郡中并裁許之面々急度可被申渡候。以上。

丙四月廿九日

横山左衛門

長九郎左衛門

本多安房

津田宇右衛門殿

岡嶋五郎兵衛殿

附札に、金澤本長寺跡々より不受不施に而候條、參詣いたさせ申間敷候。右之末寺、此外不受不施寺有之候共同断。とあり。按ずるに、前件之達書にて見れば、片岡七郎右衛門改宗断書は、日蓮宗不受不施三寶寺と載せたるを寫誤りたるものにて、三寶寺は元より不受不施派にはあらざりけん。

○秋山神

三寶寺に安置す。此の秋山は世人三寶寺の秋山様と稱し、痔疾難儀の人は、此の秋山に祈請すれば必ず靈驗ありて、忽ち平癒すといへり。故に平常參詣人多く、其の名高し。何れの頃より當地に安置せしにや、其の時代年曆いまだ詳かならず。或は曰く、秋山神といふは、其の寶江戸幕府徳川家の旗本土秋山何某といへる人にて、甚だ痔疾を難儀して生涯此病にくるしみ、遂に痔疾の爲に落命せり。在世中日蓮宗に歸依して、平常法華經を讀誦しけり。謂つて曰く、痔疾は人しらぬ難病なり。後世此の病を愛ふる人を救はん事を祈念す。我死せば其の靈に祈請すべしと。故に世人其の靈を秋山神と崇め、痔病の守護神とす。元はアキヤマといひたるを、今はシウザンと音讀すといへり。

○倉谷山宗榮寺廢址

其の廢址は三寶寺の尻地にて、今に至り宗榮寺跡といへり。宗榮寺は法華宗瀧谷妙成寺の末なり。其の來歴は貞享二年の由來書に、當寺開基、能州瀧谷妙成寺十五世日條聖人之弟子素閑日養。元和七年加州石川郡倉谷銀山に於て、

上木五郎左衛門・片桐彌右衛門其外集り居候一宗中申合建立之所、其後倉谷銀山衰微致し、檀家の人々金澤へ引取に付、宗榮寺も慶安三年金澤へ引越、卯辰山地子地に寺屋敷を請爰に造立仕。但し二代目住持之時焼失、傳來之文書類悉く焼亡仕、委細不相知。天和元年に寺屋敷御改有之。其節寛永拾六年之建立与書上申候。其證文今以所持仕。とあり。又別來歷書には、元和七年日條上人之弟子素閑日即、加州石川郡倉谷銀山町に創立仕に付、山號を倉谷山と號すと記載す。按ずるに、倉谷銀山の濫觴は延寶八年の言上書に見えたり。

御尋に村申上候。

一、石川郡倉谷かね山は銀山は大、金山は少々御座候。山出來之年數は、九十九ヶ年許に罷成申由承及申候事。

一、山見立申者は、倉谷村新右衛門・八郎右衛門与申者之由申候。山さかり申儀は、八拾年以前より二拾四五ヶ年之間にて、御奉行數名御附被成候へども、何れも御名覺無御座候。其時分御運上銀、一ヶ年に百貫目許も上り申由承申候。但年により高下御座候と承申候御事。